

滝のある小さな和庭の制作

テーマ：玄関脇の傾斜空きスペースにミニ龍門瀑のある和庭の制作

《 その2 滝見台と竹垣を造る 》

1. 滝見台の構想

三級の滝は門を入ったところのアプローチから見のように配石をしています。しかし、龍門瀑が姿を現し始めると、ゆっくり滝を眺める場所が欲しくなってきました。当初、三級の滝に続く場所は石庭を造る予定でしたが、その場所を滝見台にすることにしました。

計画位置は門から入ったアプローチからは背たけほどの高さがあります。昇降を考え、アプローチからの高低差を出来るだけ小さくすることを考えました。

単なるテラスでは面白みもないので、^{いわくら}磐座を設け座禅石とすることにします。しかし実際に磐座に用いる石を持ち込むことは場所的にもコスト的にも困難であるため、相応の大きさのスライスした火山岩を置き、その周りに^{つらいち}面一に石を敷き詰めることにより磐座風を演出します。

複数の人が同時に乗れるようにテラス面積を大きくするためには、周りの土留めが急勾配になるため土留めにも十分な配慮が必要となります。

滝見台の側面はアルミ製の柵があり、景にそぐいません。このミスマッチを緩和するために柵の前には竹垣を設けることにします。

また、テラスに登るための歩路も必要となります。このため土留めには段差を設け、段差に沿って飛石を配置することにします。

2. 滝見台の施工

滝見台の土留めはサビ御影の縁石(12cm(H)×15cm(B))を積み、重力式で支えました。座禅石に用いる火山岩を縁石天端と高さを合わせて設置します。座禅石の周りは10cm角(厚さ2~3cm)の舗石で囲い、縁石との間にも舗石を敷き並べます。



滝見台を造る場所（芝生部分）



縁石用サビ御影の据付け



座禅石（火山岩）の据付け



舗石を敷くための下地造り

舗石の下地は空練りモルタルを厚さ2～3cmで敷きます。舗石は自然石を加工したものであり、厚みが一定でないため一枚ずつ空練りモルタルを敷き均しながら高さを合わせます。縁石の無い端部の舗石は下にラス（エキスパンドメタル）を敷き、舗石にはモルタル接着剤を塗布し、練りモルタルで固定して動かないようにします。



厚みの不揃いな舗石



舗石の敷均し



縁石の無い端部の舗石の施工

舗石の据付け手順



①空練りモルタル均し

砂 4 : セメント 1 で空練りモルタルを練り、敷きこむ。



②モルタル締め固め

場所が狭いのでゴムハンマーで転圧する。



③舗石の寸取り

貼り位置に合わせ舗石を切断する位置を石に印す。



④舗石切断

舗石をディスクグラインダで切断する。



⑤舗石貼り付け

切断した舗石を据付け、ゴムハンマーで叩く。叩いて沈んだら、高さが合うように下地モルタルを調整し再度叩き込む。高さが合うまで繰り返す。



⑥据付け済み状況

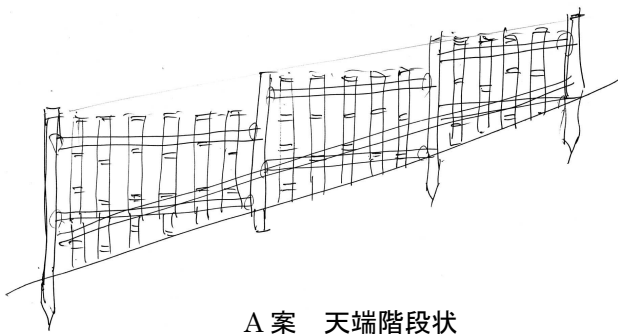


滝見台の完成です

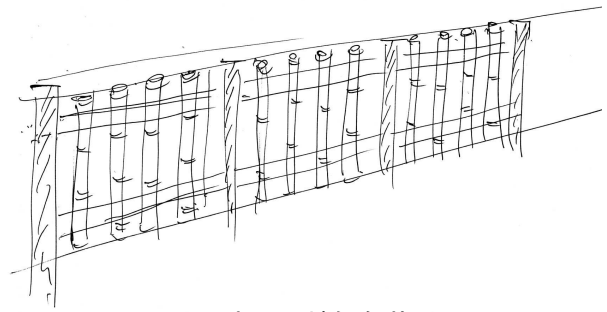
3. 竹垣の制作

竹垣は既設アルミ枠遮蔽柵の前に柵の冷たさを和らげるために作ります。竹垣の形式としては重苦しさを避けるため透かし垣とします。また滝見台に坐したとき、滝との距離感が出るように遠近法を用います。

垣の形状については次の2つの形状を考えましたが、実地に胴縁を仮置きしてみるとA案では胴縁間隔が極端に狭いところと広いところがあるので、B案をもとに案を練ることにしました。



A 案 天端階段状



B 案 天端傾斜状

〔竹垣の作図〕

竹垣の素材は次のものを用いることにし、創作四ツ目垣とします。

親柱: 45度の焼杭に防腐剤を塗布して使用

胴縁: 36度の桧材に防腐剤を塗布して使用

立子: 竹をバーナーで軽く炙り、あぶり竹として使用。

材の固定方法は

親柱と胴縁はラティス留め金具(矩金具)を使用してネジ釘固定。

立子は胴縁に真鍮釘で取付。

立子の取り付けは後ろ側にスペースが無いことから全て前面に取付。

寸法関係の注意点は

親杭の間隔は滝見台側から滝に向けて狭くし、遠近感を強調する。

親杭の高さは滝見台側から滝に向けて低くし、遠近感を強調する。

立子の太さは滝見台側から滝に向けて細くし、遠近感を強調する。

滝側の親杭の高さは滝の石組み高さより低くし、滝の落差を小さく見せない。

親杭天端のレベルは滝見台側から滝に向けて高くし、滝の高さを強調する。

美観について

立子をあぶり竹とするとき、節を強く炙り垣に変化を持たせる。

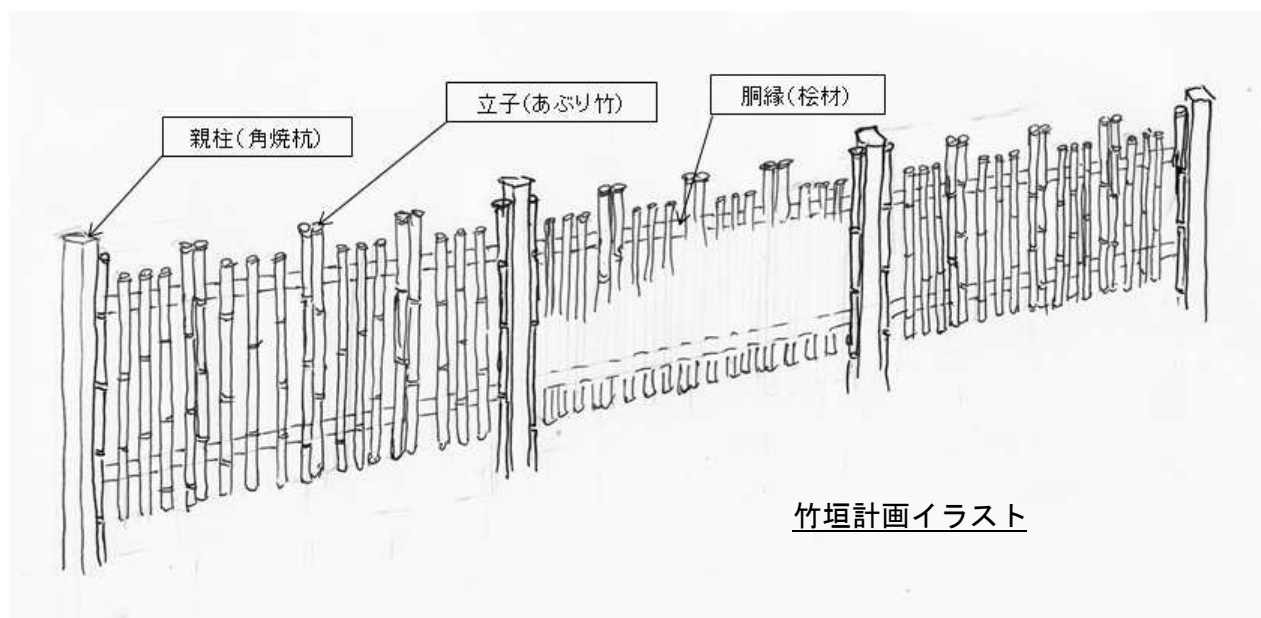
立子の配置は 2-1-1-1-2-1-1-1- の配置の繰り返しとし、変化を持たせる。

2本組立子と1本立子の天端は高低差をつけ、変化を持たせる。

四ツ目垣で行う棕櫚縄でのイボ結びは竹垣が引き立ちすぎるので、行わない。

下の図は竹垣の計画イラストです。

竹垣の高さは親杭で100cm～60cmです。2本組立子の頭は親杭天端より5cm、1本立子の頭は更に5cm下げてあります。全長340cmです。基礎部に送水用の配管スペースなどがあり、理想的な割り付けにはなりませんが、然程違和感はありません。



竹垣計画イラスト



使用した竹材



バーナーで竹を炙る



立子を真鍮釘で打付け

竹は細いものから太いものまで要るので4mと2mのものを購入し、取付け場所により太さを使い分けています。

竹の太さに合わせ真鍮釘も32mm～45mmまで準備し、使用しています。



竹垣完成写真全景



滝見台からの景

元のページへ戻るにはブラウザの[戻る]ボタンをご使用ください。